科目名			担当教員	
心理学概論			佐藤　俊人 柴田　理瑛・平泉　拓	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FA2501	4	2	RorSR (講義)	1年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	

※２０１７年度以前に入学した方が対象の科目です。２０１８年度以降に入学した方は履修登録できません。
※「心理学概論 A・B」のスクーリングを 16 コマ受講する必要があります。スクーリング試験も２回行います。

科目の概要

■科目の内容

心理学の基礎を学び、自分や他者の心を理解することは日常生活の多くの場面で有効なものです。

心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学びます。研究をはじめて間もない方にとっては心理学の全体像をイメージしていただき、また、すでに研究が進んでいる方にとっては、その再確認をしていただけることをめざします。教科書・レポート学習では基礎的な理論を学び、スクーリングでは心理学諸理論をどう日常生活と関連づけて考えるかを学びます。

■到達目標

１）心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。
２）心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みと働きを、具体例を挙げながら説明できる。
３）心理的支援の考え方の基本を説明し、実践することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価５０％＋スクーリング評価 or 科目修了試験５０％

■教科書・参考図書

【教科書】

行場次朗、大渕憲一著『ライブラリ 心理学の杜１　心理学概論』サイエンス社、２０２１年

（最近の教科書変更時期）２０２５年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

【参考図書】

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA、２０１４年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかを学ぶ。
2	知覚と認知	錯視を用いて、知覚と認知の仕組みについて学ぶ。
3	心の構造①（精神分析的な視点から）	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
4	心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
5	日常生活の中の学習理論①	古典的条件づけの基本について学ぶ。
6	日常生活の中の学習理論②	日常生活の中の学習理論②
7	日常生活の中の学習理論③	オペラント条件付けの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
8	まとめ	知覚・認知、人格・発達、学習の観点からまとめ、心理学の基本的な考えを理解する。
9	スクーリング試験	
10	発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
11	発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
12	欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合うための方略を学ぶ。
13	カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
14	カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
15	心理学的な情報を冷静に判断して考えるということ	心理学の諸理論の根拠とされてきた現象や事例について正しく理解し、自分なりの判断力を持つことを学ぶ
16	心理学的支援の考え方	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
17	まとめ	第 10回から第 16 回までの学習内容を振り返り、到達目標に沿って再考する。
18	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。教科書は主として図表の確認のために使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリングで取り上げた心理学理論を実学としてどう応用するかを考えていただきます。
「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習 30 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1・2	心理学とは 【第１章】	心理学とは何か、心理学の起源、心理学の主要テーマ	心理学では、どのような目的のためにどのような手法を使い、どのように情報を収集するのかを知り、自分の行っている研究はどの領域に分類されるかを理解することで、心理学全体のイメージが分かりやすくなります。
3・4	心理学の歴史 【第２章】	心理学の発展に影響を与えた思想、心理学の萌芽、心理学の展開、日本の心理学小史	心理学という学問分野を理解する上で、その歴史を振り返ることは大変有意義です。人の心の解明について、体系的かつ実証的な科学的アプローチがもちいられるようになった背景とその過程を理解しましょう。
5・6	感覚と知覚 【第３章】	感覚の種類と大分類、代表的な感覚、共感覚、優位な感覚とクロスモーダル現象、感覚の一般的特性、知覚の基本過程、恒常性―外界を安定して知覚するはたらき、錯覚―物理世界と知覚世界の違い	感覚は誰にとっても極めて身近な体験なので、古くから研究の対象とされてきました。既にギリシャ時代の哲学者、アリストテレスは、感覚の一般的特性を述べ、分類を行っています。感覚と似ている言葉として、知覚があります。この章では、代表的な心理学の研究に触れながら、感覚と知覚の違いについて理解しましょう。
7・8	注意と認知 【第４章】	注意過程―情報の選択、視覚的探索、注意の特性に関わる諸現象、注意の障害、パターン認知のとらえ方、内部表現、物体の認知、顔の認知、大域処理･局所処理と認知スタイル、心的イメージ、認知的エラーとメタ認知、認知機能の障害	「心ここにあらざれば、視れども視えず、聴けども聞こえず」ということわざが示すように、私たちの感覚では、無数の情報を絶えず受け取りながらも、選択的な情報の取捨選択を行っています。このような心の働きを、心理学では注意と呼びます。この章では、代表的な心理学の研究に触れながら、注意の仕組みや過程について理解しましょう。
9・10	学習と記憶 【第５章】	心理学における学習のとらえ方、パブロフ型条件づけ、オペラント条件づけ、情動条件づけ、不随意反応のオペラント条件づけ、学習性無力感、記憶の諸相、記憶保持の様々な段階、長期記憶の種類、その他の記憶の種類、記憶の抑制と定着、記憶の変容、記憶の障害と脳内基盤	心の発達や適応がうまくいくためには、経験を繰り返すことによって得た情報や行動パターンを内部に蓄積していく必要があります。このように、経験によって新たな行動を獲得することを、心理学では、学習といいます。この章では、代表的な心理学の研究に触れながら、学習の仕組みや過程について理解しましょう。
11・12	言語と思考 【第６章】	言語のとらえ方、言語機能の脳内基盤と失語症の不思議、文の構造と理解、概念とカテゴリーの定義、演繹的推論と帰納的推論、問題解決、批判的思考	人間と動物とを隔てる最も顕著な精神機能は、言葉を使って他者とコミュニケーションをとったり、言葉を使って考えたりすることです。人間は、概念を学習することで、物事を抽象化し、知識体系を構築してきました。

			この章では、言語と思考の発達やそれらの様々な特性について理解を深めます。
13・14	感情と動機づけの心理学【第７章】	感情の３成分、基本感情、感情の理論、感情の機能、感情の表出、動機づけの理論	感情は誰もが経験する最も身近な心理的事象なので、心理学を学ぼうとする誰もが最初に関心を持つテーマでしょう。感情とは、いったい何で、どのような意味をもつのでしょうか。この章では、代表的な心理学の研究に触れながら、感情の仕組みや過程について理解しましょう。
15・16	発達心理学【第８章】	知的発達、心の理論、社会性の発達、フロイトの心理性的発達理論、発達の諸要因―遺伝と環境の相互作用	大人からみると、子どもは予想外の行動をすることがあるので、その言動は周りの大人たちを驚かせることがあります。一方で、誰しもが昔は子どもでした。どのようにして、子どもは心身を変化させ、大人になっていくのでしょうか。この章では、代表的な心理学の研究に触れながら、主に子どもの発達について理解しましょう。
17・18	パーソナリティの心理学【第９章】	パーソナリティの定義、類型論、特性論、精神力動論、認知行動理論、人間性心理学論	「その人らしさ」の捉え方は、古くからパーソナリティという概念から研究されてきました。この章では、代表的なパーソナリティに関する理論に触れながら、パーソナリティを捉える観点について理解しましょう。
19・20	社会心理学【第 10 章】	社会的影響、態度と態度変化、集団の心理、集団の意思決定―極化と集団思考、社会的行動と人間関係、社会的認知	他の人が周りにいるときと一人でいる時では、人間の心理と行動は異なります。この章では、自分の意見や行動がまわり方どのように影響を受けているか、代表的な社会心理学の知見に触れながら、日常場面の事例と結びつけて理解しましょう。
21・22	臨床心理学【第 11 章】	心の病とその分類、心の病の治療―精神医学、心理療法と心理的援助	私たちが「おかしいな」「変だな」などの言葉で表象する「異常性」には、４つの基準があります。この章では、心の病ではこの４つの基準をどのように捉えているか読み取ったうえで、主要な診断分類と心理的援助について理解しましょう。
23・24	脳科学と心理学【第 12 章】	ニューロンの構造と機能、シナプスの刈り込み、神経伝達物質、脳の基本的構造と機能、脳機能可視化技術	脳の神経学的基盤とその測定技術について知ることは、心理学研究を学ぶうえでも、well-being を実現するうえでも必須になっています。この章では、脳科学の基本知識について理解しましょう。
25・26	認知科学・人工知能と心理学【第 13 章】	第１次 AI ブームと認知革命、認知科学の方法と心理学、第２次 AI ブームと知識表現、コネクショニズムと心理学、第３次 AI ブームと心理学	人工知能の進展に伴い、人間の心のはたらきを追究する心理学の役割はより重要となることが予想されます。この章では、人工知能にできること、心理学の学習によってできることについて理解しましょう。
27・28	行動経済学と心理学【第 14 章】	経済行動の非経済的要因、経済行動における公正の動機、価値判断と意思決定	物を買ったり売ったりする経済行動を心理面から分析する応用経済学が近年、著しい発展が見られます。この章では、応用経済学の代表的な理論と知見について理解しましょう。

29 ・ 30	健康と安全の心理学 【第 15 章】 まとめ	ストレスと健康、安全とリスクの心理学	ストレスが健康に及ぼす影響、ストレスに対する対処、災害時の避難行動と交通事故に焦点をあて、健康と安全に関わる人の心理と行動について理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。
3 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
4 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

本レポートにおける生成 AI の使用レベルは **B（限定的利用）** とします。具体的には、**レポート本文の推敲・校閲（文章の読みやすさの向上、誤字脱字の確認、文法チェックなど）を目的とした使用のみ許可します。**内容の構成、要点整理、引用文献の要約、考察の生成、図表作成等、レポート内容に直接関わる生成的支援は認めません。また、生成 AI を使用した場合は、**引用文献一覧の末尾に以下の一文を必ず明記してください。**

「このレポートを作成するにあたって、文章を校正するために生成 AI を利用した。」

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロゥによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

また、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（2024 年度までの旧教科書所持者は、四訂版ｐ.93　図 3-33、三訂版ｐ.８７　図 3-２７、改訂版ｐ.143　図 6-26 を参照）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

【2 単位めアドバイス】

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面でどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとし始めます。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子ども

を叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（2024 年度までの旧教科書所持者は、四訂版ｐ.108～114　三訂版ｐ.100～105　改訂版ｐ.14～16 を参照）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えてみていいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみるとおのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずです。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられたのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それは「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？おそらく３日もたてばもとの行動に戻っていたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

【3・4 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

科目修了試験

■評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。なお、科目修了試験に関しては、生成 AI の利用は認めません。